

「水と共に」

地球上の生命の源であり、生物の生存にとって不可欠なもの・それが「水」。ぼくたちの生活を支えてくれ、大きな役割を果たしている。その事を痛感する出来事をぼくは今から六年前に経験した。二〇一一年三月十一日、東日本大震災が東日本をおそった。家やビルがグラグラとゆれ、くずれる所もあった。地震はあたり前の日常、あたりっまえの風景を一瞬にして、こわしていった。この東日本大震災による、福島第一原発の事故で、放射能が東日本に拡散し、空気や農産物、そして、水は汚染されて人間にとって危険で、害のあるものにかわってしまったのだ。

山添村立山添中学校 二年

北村 悠

ぼくは、その時、栃木県に住んでいて、実際、そのおそろしさを身をもって、体験したのだ。人々は水の汚染を心配し、水道水を利用せず、スーパーのペットボトルの水や放射能の影響がない、きれいな水を求めて、それらの水は、またたく間になくなってしまったのだ。実際、ぼくの家でも同じようなことをしていた。水道水の汚染を心配し、当時、通っていた栃木県の、小学校でも、お茶や水を必ず持参し、水道からの水は絶対に飲まないように、注意されていた。そこで、奈良の祖父母に、たのんで、ペットボトルの水を買って、送ってもらうこともあった。

また、
「うちの井戸水は大丈夫だから。」
と、茨城の祖母は井戸水をわけてく
れ、たくさんのペットボトルにたくさんの井
戸水を入れて、持って帰ったこともよくあつ
た。

今から思うと、祖父母の言葉は、何の根拠
もなく、ただの思いこみだったのかもしれな
い。

父も母も、毎日の生活の水を確保すること
にとっても苦勞して、水道水がいつ使えるかな
どを心配していた。

このように、人々の生活には水を欠かすこ
とはできず、水によって、なくなる人もでた
り、水不足によって、生活に苦勞をしたり、
水によって、あたり前のように生活ができた
りするのだ。

人間の生活を左右するといっても、過言で
はない。

水とは、人間の生活に、なくてはならない
とても価値のあるものなんだと改めて実感
した。

そして、自分たちの毎日のくらしや、生活、

家庭の中で、水を大切に、無駄にしないよう
に使わないといけないということを改めて意
識した。
普段から、災害がおこった時のためにたく
さんの非常用の水を準備しておくことも大切
だ。

限りある貴重な水を未来へと引きわたすた
めに、ぼくたちは、水をよぎらずに使ったり、
こまめに水をとめたり、川や海、湖などの水
辺環境をきれいにしたりして、水の大切さ、
水不足体験などを未来に伝えていかなければ
ならない。